服飾文化共同研究報告 2011
共同研究番号 22002

制服としての看護服の変遷と現代における看護服のデザインの違いが看護師および患者に与える心理的影響

Changes in nurse clothes as uniforms and the psychological effects of differences in the design of nurse clothes on nurses and patients

庄山　茂子[*1+], 栃原　裕[*2+], 窪田　惠子[*3+], 青木　久恵[*3+]
Shigeko Shoyama[*1+], Yutaka Tochihara[*2+], Keiko Kubota[3+] and Hisae Aoki[*3+]

＊1　長崎県立大学国際情報学部　長崎県西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1
Faculty of Global Communication, University of Nagasaki,
1-1-1 Manabino, Nagayo-cho, Nishisonogi-gun, Nagasaki, Japan
＊2　九州大学大学院　芸術工学研究院
Faculty of Design, Kyushu University
＊3　福岡女学院看護大学看護学部
School of Nursing,Fukuoka Jo Gakuin Nursing College
+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化学園大学
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture
Bunka Fashion Research Institute, Bunka Gakuen University

Abstract：　In recent years, the design of nursing uniforms, employing a variety of colors and patterns, has placed emphasis on their impression of being the least intimidating and forbidding to patients as well as functionality and hygiene. The present study, including a survey of hospitals nationwide, aimed to identify the optimal design of nursing uniforms for both patients and nurses, focusing on nursing scrubs as a medium of expression. A total of 87.8% of the hospitals had nursing uniforms, and 89.5% viewed them as one of the elements that add to the appeal of a hospital. White scrub pants and one-piece robes were the most common uniforms. When adopting new uniforms, 90.3% of the hospitals incorporated the opinions of nurses, selecting opaque, stretch material with a soft texture and a combination of scrub tops of appropriate length and pants so that they could move freely. Whereas some hospitals favored white, which conveys an image of cleanliness and reliability, others chose subtle, warm, and soft non-white colors; opinions were divided over the color of white. A total of 65.7% of the hospitals were planning to introduce new nursing uniforms.It is important to select designs and colors that help reduce patients' anxiety and strain while presenting an image of trust and cleanliness.

はじめに

日本においては、1885 年に看護婦養成の教育がはじまっている。当時は筒袖の上着と袴のような長いスカートに草履というスタイルであった。1920 年代に詰襟のワンピーススタイルが看護服に採用された。

＊1）shoyama@sun.ac.jp

1940 年頃から欧州の看護婦の白衣が非常に活動的であることをヒントに改良され、折り衿でヒダの少ない短いスカートへとスタイルが変化した[1,2,3]。現在では、ワンピースに加え、パンツと上衣を組み合わせるなど様々なスタイルの看護服が着用されている。しかも白だけでなく様々な色や柄の施されたものが見受けられる。このような看護服の変化には、機能性の向上、現代ファッションスタイルの個性化、白衣が威圧感や恐怖感を増幅させることが問題視されるようになったことなど、様々な背景が考えられる。本研究では、表現メディアとしての看護服に着目し、患者と看護師にとって最適な看護服のデザインを明らかにすることを目的とした。

まず、全国の病院を対象に看護服の実態を明らかにするために調査を実施した。さらに、近年多様化している看護服のスタイル(ワンピース、チュニックとパンツ、スクラブとパンツ)や色彩が看護師自身や患者の心理に及ぼす影響についての報告は見受けられない。そこで、実態調査をふまえスタイルや色の異なる看護服に対し、患者や看護師がどのような印象を抱くか調査した。

1. 女性用看護服に関する全国調査

1.1.調査の目的

表現メディアとしての看護服に着目し、全国の病院を対象にどのようなデザインの看護服が採用されているのか、また、看護服に対してどのような配慮がなされているか明らかにすることを目的に実態調査を実施した。

1. 2. 調査の概要

(1)対象:全国の臨床研修病院 804 病院、調査時期:2011 年 1 月～2 月、調査方法:郵送による質問紙調査、回収率 58.1%、回答者:看護部統括責任者(2)調査内容:①病院について(地域、看護師数、ベット数、診療科等)、②看護服に対する病院(着せる)の視点 6 項目、③現在着用されている看護服について、④看護服に対する患者(見る)の視点 4 項目、⑤看護服に対する看護師(着る)の視点 3 項目、⑥今後の看護服に対する検討 3 項目

1. 3. 結果および考察

(1)調査対象の病院について

回答を得た病院の所在地を表 1 に示した。関東、近畿で約 42.8%を占めている。看護師数は、98%以上の病院で 100 人以上であった(表 2)。全看護師数に対する男性看護師数を表 3 に示した。

厚生労働省[4]が発表した平成 18 年度の男性看護師の割合は 4.7%であったが、4.7%を超える病院がみられた。ベッド数については、100 床未満の病院は 0.4%で、200 床以上 500 床未満の病院は、全体の 59.0%を占めた(表 4)。すべての病院が内科、外科の診療を行う総合病院である(表 5)。以下の調査では、女性用看護服を対象として質問した。

表 1 病院の所在地

Table1 Address of the hospital

地域	数 (割合%)	地域	数 (割合%)
北海道	24(5.1)	近畿	99 (21.1)
東北	45(9.6)	中国	33 (7.0)
関東	102(21.7)	四国	17 (3.6)
信越	24(5.1)	九州	32 (6.8)
北陸	25(5.3)	沖縄	3 (0.6)
東海	65(13.9)	有効回答	469 (100)

表 2 看護師の数

Table2 Number of nurses

看護師の人数	数 (割合)
50 人以上 100 人未満	8(1.7)
100 人以上 300 人未満	204(43.7)
300 人以上 500 人未満	149(31.9)
500 人以上	106(22.7)
有効回答	467(100)

表 3　男性看護師の数　　Table3　Number of male nurses

男性看護師数 / 全看護師の人数	10 人以下	11 人～20 人	21 人～30 人	31 人～40 人	41 人～50 人	50 人以上	有効回答（%）
50 人以上 100 人未満	7(87.5)	1(12.5)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	8(100)
100 人以上 300 人未満	131(67.2)	52(26.7)	6(3.1)	2(1.0)	1(0.5)	3(1.5)	195(100)
300 人以上 500 人未満	33(23.1)	67(46.9)	33(23.1)	5(3.5)	3(2.1)	2(1.4)	143(100)
500 人以上	4(4.2)	13(13.7)	22(23.2)	28(29.5)	11(11.6)	17(17.9)	95(100)

表 4　病院におけるベット数
Table4　Number of beds in the hospital

ベット数	数（割合%）
100 床未満	2(0.4)
100 床以上 200 床未満	37(7.9)
200 床以上 300 床未満	76(16.2)
300 床以上 400 床未満	122(26.1)
400 床以上 500 床未満	78(16.7)
500 床以上 600 床未満	57(12.2)
600 床以上 700 床未満	39(8.3)
700 床以上 800 床未満	18(3.8)
800 床以上 900 床未満	10(2.1)
900 床以上 1000 床未満	10(2.1)
1000 床以上	19(4.1)
有効回答	468（100）

表 5　病院における診療科
Table5 Clinical department of the hospital

診療科	数（割合%）
内科系	469(100)
外科系	468(99.8)
小児科系	387(82.5)
産科系	333(71.0)
リハビリ系	303(64.6)
歯科系	247(52.7)
精神心療内科系	193(41.2)
内科外科混合	9(1.9)
救急	6(1.3)
その他	282(60.1)
有効回答	469（100）

（複数回答可）

(2)看護服に対する病院（着せる）の視点

看護服に対し、病院側の視点から質問した。全体の 87.8%の病院で看護服を指定し（表 6）、看護服は、魅力ある病院作りの一要素であるに対し、「やや考える・強く考える」と回答した病院は89.5%であった（表7）。看護服は衛生面、看護の動きやすさなどの機能面だけでなく制服として、病院の理念や目標を示すものと捉えられていることが推察される。看護師の年齢、体型、診療科、地域性に配慮して看護服を着せているか質問した。全体の 50.4%の病院で看護師の体型に配慮し、24.1%で診療科に配慮していた（表8）。具体的配慮内容として、体型では、「体型カバーできるように上着丈を長めにしたりチュニックを採用したりしている」、「ストレッチ素材にしている」、「ウエストをゴムで調整できるようにしている」、「袖ぐりにゆとりをいれている」、「肩にタックをいれている」、「マタニティを準備している」、「デザインを数種類準備して対応している」などの配慮がなされていた。診療科に対する配慮では、「小児科、産科系をピンクやパステルにしている」、「小児科に動物柄を採用している」、「集中治療室をピンクやブルーにしている」、「救命救急ではスクラブを採用している」、「緩和ケアには、花柄を使用している」の回答が多くみられた。年齢に対する配慮は、「幅広い年齢層に対応できるデザインにしている」、「デザインを数種類準備している」、その他主に体型への配慮と重複する内容であった。地域性についての配慮は、「気候にあわせて、快適な素材、スタイルを採用している」、「病院の理念にあうように配慮している」、「地方であることから派手にならないようにしている」の回答がみられた。

現在、採用している看護服に最も近いデザインを 13 種のサンプルから選択してもらった結果、最も多かったのは白のパンツスタイル（82.3%）、次に多かったのは白のワンピース（73.6%）であった(図 1)。約20%でペールトーンのピンクやブルーのパンツスタイルが採用されていた。上着に柄のあるデザインやスクラブタイプのデザインは約 10%の病院で採用されていた。

表 6　看護服の指定の有無
Table6　Designation of nursing uniforms

	病院数（割合%）
1. 指定している	395(87.8)
2. 指定していない	55(12.2)
有効回答	450(100)

表 7　看護服は魅力ある病院作りの一要素である
Table7　Nursing uniforms as an element to increase the appeal of a hospital

	病院数（割合%）
1. 全く考えない	0(0.0)
2. あまり考えない	17 (3.6)
3. どちらでもない	32 (6.9)
4. やや考える	272 (58.4)
5. 強く考える	145 (31.1)
有効回答	466 (100)

表 8　看護服で配慮している項目　Table8　Considerations regarding nursing uniforms

	年齢に配慮 病院数（割合%）	体型に配慮 病院数（割合%）	診療科に配慮 病院数（割合%）	地域性に配慮 病院数（割合%）
1. 配慮している	77 (16.6)	234(50.4)	112(24.1)	22(4.8)
2. 配慮していない	386 (83.4)	230(49.6)	352(75.8)	437(95.2)
有効回答	463 (100)	464(100)	464(100)	459(100)

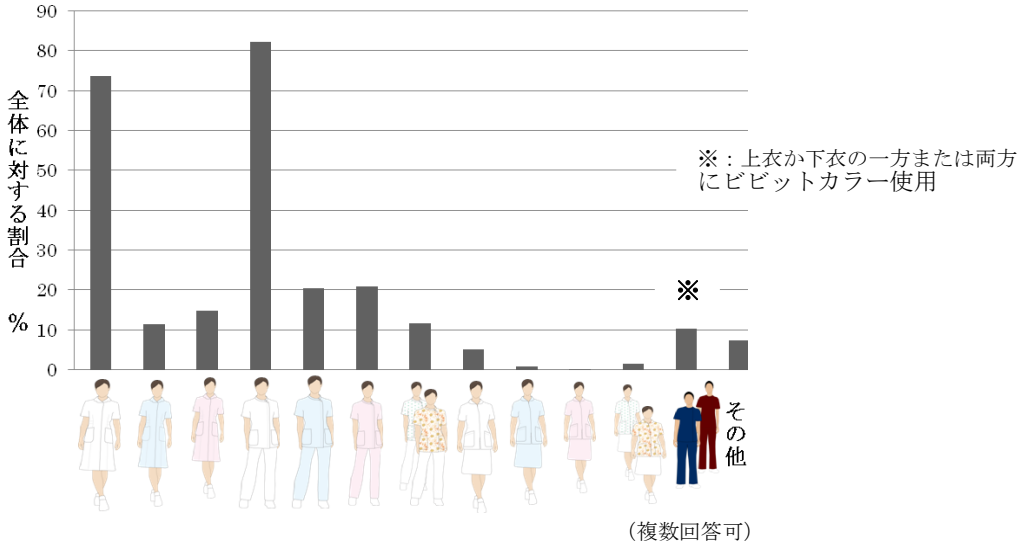

図 1　採用している看護服　Fig.1　Nursing uniforms adopted

（3）看護服に対する看護師（着る）の視点

次に、看護師が看護服を着る視点から質問した。全体の 90.3%の病院で看護師の意見を取り入れていた（表 9）。全体の 93.7%が素材について配慮していた（表 10）。具体的な内容として透け防止（85.7%）、肌触り（62.6%）、伸縮性（57.5%）、防しわ性（48.5%）があげられた（表 11）。素材については、透け防止が最も多かったことから、動きやすさや衛生面だけでなく他者からの見え方について看護師が意識していることが推察された。動きやすさに関しては、上着丈を調整したり（98.9%）パンツスタイルを採用（91.1%）したりして改善されていた(表 12)。

表 9　看護師の看護服に対する意見
Table9　Opinions of nurses on nursing uniforms

	病院数（割合%）
1.　取り入れている	418 (90.3)
2.　取り入れていない	45 (9.7)
有効回答	463 (100)

表 10　看護服の素材に関する配慮の有無
Table10　Considerations regarding the material of nursing uniforms

	病院数(割合%)
1.　配慮している	433 (93.7)
2.　配慮していない	29 (6.3)
有効回答	462 (100)

表 11　素材に関する配慮　（複数回答可）
Table11 Consideration items regarding material

	病院数（割合）
1.　透け防止	371(85.7)
2.　肌触り	271(62.6)
3.　伸縮性	249(57.5)
4.　防しわ性	210(48.5)
5.　耐久性	181(41.8)
6.　速乾性	131(30.3)
7.　形状安定性	128(29.6)
8.　吸水性	120(27.7)
9.　防汚性	106(24.5)
10.　制菌加工	87(20.1)
11.　保湿性	58(13.4)
12.　帯電性	53(12.2)
13.　撥水・撥油性	21(4.8)
14.　消臭性	16(3.7)
15.　その他	21(4.8)
有効回答	433（100）

表 12　動きやすさに関する配慮　（複数回答可）
Table12　Considerations regarding mobility

	病院数（割合）
1. 上着丈	465（98.9）
2. パンツを採用	428（91.1）
3. ワンピースを採用	285（60.6）
4. パンツのウエストにゴム	282（60.0）
5. 上着のポケットの位置・大きさ	188（40.0）
6. ワンピースのポケットの位置・大きさ	122（26.0）
7. 上着の袖口、袖付け、袖の長さ	165（35.1）
8. 上着のゆとり	136（28.9）
9. 上着の襟	132（28.1）
10. ワンピース袖口、袖付け、袖の長さ	108（23.0）
11. パンツの. ゆとり	104（22.1）
12. パンツの丈	103（21.9）
13. パンツポケットの位置・大きさ	98（20.9）
有効回答	470（100）

(4)看護服に対する患者(見る)の視点

患者が看護服を見る視点から質問した。清潔なイメージを与えるよう配慮しているが最も多く(96.8%)、次に他の職種と識別しやすいよう配慮している(79.7%)、患者にリラックスさせるように配慮している(63.1%)であった。すべての項目で、色による配慮が上位にあがった(表 13)。具体的内容については、患者に清潔感や信頼のあるイメージを与えるために白を基調としていた。一方で、 患者をリラクックスさせるために、白を廃止し、淡い色、暖かい色、優しい色を採用し、丸襟やトリミングをいれていた。白にはプラスとマイナスの捉え方がみられた。

表 13　患者の視点にたった配慮　Table13　Considerations from the viewpoint of patients

	1. 色	2. 柄	3. スタイル	4. ポイント	5. その他	6. 配慮なし
1. 清潔なイメージを与えるよう配慮	350(74.6)	14(3.0)	35(7.5)	4(0.9)	35(7.5)	15(3.2)
2. 患者をリラックスさせるよう配慮	129(27.5)	48(10.2)	42(9.0)	20(4.3)	17(3.6)	173(36.9)
3. 患者に信頼されるよう配慮	93(19.8)	14(3.0)	113(24.1)	14(3.0)	46(9.8)	134(28.6)
4. 他の職種と識別しやすいよう配慮	193(41.2)	26(5.5)	108(23.0)	22(4.7)	18(3.8)	95(20.3)

（複数回答可）　病院数（全 469 病院に対する割合）

(5)今後の看護服に対する検討

今後の看護服について、検討する予定の有無について質問した結果、65.7%の病院で検討する予定があり(表 14)、具体的検討内容については、スタイル(92.6%)、素材(69.9%)、色(63.5%)であった(表 15)。22.9%の病院で検討委員会が設置されていた(表 16)。

表 14　看護服の検討予定
Table14　Plans for the introduction of new nursing uniforms

	あり	なし	有効回答
検討の予定	299（65.7）	156（34.3）	455（100）

表 16　看護服検討委員会の有無　（複数回答可）
Table16　Review committee on nursing uniforms

	あり	なし	有効回答
委員会	104（22.9）	351(77.1)	455（100）

表 15　看護服検討内容　Table15　Details of the introduction of new nursing uniforms　（複数回答可）

	1. スタイル	2. 素材	3. 色	4. 柄	5. その他
検討内容	277(92.6)	209(69.9)	190(63.5)	116(38.8)	62(20.7)

病院数（検討あり 299 病院に対する割合）

多くの病院で看護服の検討を予定していることから、今後、患者の不安や緊張を和らげ、信頼や清潔感を高めるための工夫が求められる。

２.デザインの異なる看護服が看護師や患者に与える心理的影響について

2.1.調査の目的

看護服については、衛生面からの研究や白衣高血圧症に着目した研究は数多くなされてきたが、近年多様化しているスタイル（ワンピース、チュニックとパンツ、スクラブとパンツ）や色彩が着装者自身や観察者に与える心理的影響についての報告は見受けられない。そこで、スタイルや色の異なる看護服に対し、患者および看護師がどのような印象を抱くか調査し、今後の看護服に求められるデザインを明らかすることを目的とした。

2.2 調査の概要

（1）調査に用いた看護服：1.白ワンピース、2.白上衣と白パンツ、3 ピンク花柄チュニックと白パンツ、4 ピンク花柄スクラブと白パンツ、5. ピンク無地スクラブと白パンツ、6. エンジ無地スクラブと白パンツ（2）実施病院：長崎の歯科医院、福岡の内科、外科医院　3 病院、調査時期：2011 年 8 月～9 月、調査対象者：患者および看護師、調査方法：質問紙調査、回収率 100％、（3）性別・年齢（全員）、担当の診療科（看護師・職員）、病気に対する不安（患者）、異なるデザインの看護服 6 スタイルに対し好ましいデザインであるか、その理由、看護服のイメージ 25 項目に 5 段階の評定尺度で回答を求めた（全員）。（3）着用した看護師に対しては、スタイルごとに仕事のやりがい、患者への声かけに変化があったか回答を求めた。（24 年度に分析結果を報告）

おわりに

平成 23 年度は、22 年度末に全国の病院を対象に実施した看護服の実態調査看護服の実態を明らかにした。多くの病院で看護服の検討が予定されていることから、実際に 3 病院の看護師、衛生士に異なるデザインの看護服を着用してもらい、看護師ならびに患者の心理的視点からフィールド調査を実施した。24 年度は、制服としての看護服の歴史的変遷を社会の変化から明らかにする文献研究と本年度のフィールド調査結果をふまえて、さらに異なるデザインを用いたフィールド調査を行い、看護服に求められるデザインを明らかにする。

謝辞　全国調査にご協力いただきました各病院の看護部統括責任者の皆様、印象評価の調査にご協力をいただきました長崎、福岡県の 3 病院の患者様や看護師の皆様に感謝申し上げます。

文献

1. 日本看護歴史学会（編）：「日本の看護 120 年－歴史をつくるあなたへ」第 10 章「看護の草創期」上坂良子（筆），pp.183-208，日本看護協会出版会（2008）
2. 大阪大学医学部付属病院：「阪大病院看護職員　白衣の変遷」，
http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/hp-nurse/info/graffiti-uniform.html（2011）
3. 石井とめこ・大網美代子：「近代看護成立時における看護婦の制服・看護衣について」日本服飾学会誌Vol.14，pp.35-41，（1995）
4. 厚生労働省：平成 18 年保健・衛生行政業務報告結果の概況，就業保健師等数の年次推移(2007)
http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/06/